

## 送られなかった遺書

1950年代初頭、多くの政治犯が青島東路軍法処看守所に収監されていた。死の点呼は、夜明け前に行われる。名前を呼ばれた者はすぐさま縄をかけられ、そのまま処刑場へ連行される。極刑の運命から送れないと信じた人たちは、日が当たらず、すし詰めの牢獄の片隅にしゃがみこみ、紙切れや家族の写真の裏に、大切な人への遺言を綴った。

これらの遺書のほとんどは、受取人が生きている間に届けられることはなかった。届けられたとしても、そのときにはすでに年老いて手紙を読むことも難しく、半世紀前の想いを受け取ることは到底叶わなかった。



王躍勳(1922-1950) /  
台北市第六倉庫利用合作社  
総務主任

台北に生まれる。明治大学中退。『台湾新報』『新生報』の文化部を経て、台北市第六倉庫利用合作社総務主任を務める。1947年7月、地下組織に加入する。1950年9月、死刑に処される。享年28歳。



何川(1924-1951) /  
台南工業職業学校教員

台南に生まれる。戦後、台南工業職業学校で教職を執る。1947年5月、社会運動家の郭琇琮を通じて地下組織に加入。『台南市工作委員会』を立ち上げ、台湾民主自治同盟の対外宣伝誌と二二八記念宣言を配り、学生には学校を、労働者には工場を守るよう呼びかけた。1951年3月、死刑に処される。享年27歳。



黄天(1907-1950) /  
商人

彰化に生まれる。日本統治期に早稲田大学へ進学する。卒業後、台湾総督府に勤め、戦後は商業に転じた。地主の家庭に生まれるも、搾取を強いられる農民に深い同情の眼差しを向けていた。日本統治期に農民運動家・簡吉と知り合い、戦後、彼の誘いで地下組織である中国共産党台湾省工作委員会に加入。1950年9月、当局より政治犯を置った罪で無期懲役の判決を受けるも、その後、死刑となる。享年43歳。



高一生(1908-1954) /  
吳鳳郷(現・阿里山郷)郷長

先住民族ツォウ族の高一生(ウォン・ヤタウヨガナ)は、1908年、嘉義の阿里山に生まれる。1924年、台南師範学校(現・国立台南大学)への推薦入学を果たし、最初に近代教育を受けたツォウ族のエリートとなる。卒業後は故郷に戻り、教師と警察を兼務した。1945年、呉鳳郷(現・阿里山郷)の郷長に就任。二二八事件が発生した際、先住民の自治を政府に訴えたことから、当局から要注目人物として監視されるようになる。1951年、死刑に処される。享年46歳。